

## 2019 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：患者プロフィール情報基盤研究会

設置期間：2017 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

代表幹事：石田 博・山口大学大学院医学系研究科  
副代表幹事：栗原幸男・高知大学教育研究部医療学系  
副代表幹事：近藤博史・鳥取大学医学部附属病院医療情報部  
幹事：石川 澄・社会医療法人社団沼南会沼隈病院  
木村映善・国立保健医療科学院  
合地 明・井原市立井原市民病院  
島井健一郎・千葉大学医学部附属病院企画情報部  
田中武志・広島大学病院  
中島典明・国立がん研究センター  
大原通宏・日本電気株式会社  
高井康平・日本アイ・ビー・エム株式会社  
清水 健・富士通株式会社

活動成果の概要：

### 1. 患者プロフィール情報標準化取組の見直し

本研究会では、2015 年の第 19 回日本医療情報学会春季学術大会で暫定版の標準データ項目設定を公表し、それを精査し、実用的な標準規格を策定することを目指して活動を行ってきたが、データ項目の具体的な精査は進まなかった。この状況を打開するために、2019 年度は取組戦略の見直しを主に行った。その一環として第 39 回医療情報連合大会でワークショップ「患者プロフィール情報 (PPI) の標準化戦略を考える - PPI を EHR、PHR 整備のコアと位置づけて -」を企画、開催した。このワークショップでは、数年で標準規格策定に成功した退院時サマリー規約と日本循環器学会データ出力標準フォーマット (SEAMAT) を推進された渡邊 直氏(医療情報システム開発センター)と中山雅晴氏(東北大学)に各々の取組のポイント、および規格の中核情報について報告いただき、PPI の標準規格策定が進まなかった要因を考えた。その結果、標準化に向けた明確で具体的な目的設定の欠如と推進役となるべき中核組織の実行力不足が浮き彫りになった。これらは、これまでの幹事会内部での検討でも、個別のユースケース毎にワーキンググループを形成し、ユースケースに基づいた PPI の標準データ項目の設定する案がしばしば議論に上がったが、研究会メンバーのマンパ

ワー不足の問題もあり結果として実行されなかった経緯が反省点としても認識された。

また、FHIR の取組との比較検討を行った木村映善氏（国立保健医療科学院、現・愛媛大学）からは、合意形成における「適切な割り切り」（8割の合意内容での開始）ができていなかったことも指摘された。

一連の見直しの取組による成果として、活用対象の範囲が広く、利用目的も多様なデータセットの標準化を推進するために明確となった必要事項は以下の通りである。すなわち、第一にその標準規格の利用目的を明確かつ具体的に設定すること、第二に概ねの合意でも取組を推進できる柔軟性のある運営ができること、そして第三に検討対象を必要に応じて分割し、それぞれについての専門家による集中的な検討とそれらを統括し、集約できる実行力のある組織を形成すること、である。

## 2. 患者プロフィール類似の国際規格調査と患者プロフィール情報に対する臨床医の意識調査

この2つの調査は副代表幹事の栗原の取組であるが、この研究会活動の一部として実施したので、併せて報告する。

- ① Patient Profile は用語としては存在するが、PPI の標準化の取組はインターネット上での検索では見出せなかった。しかし、患者の診療情報の要約としての Patient Summary については、国を跨いで往来の多い EU で検討が進められ、International Patient Summary (IPS) としての国際標準規格が具体的に作成されつつあることがわかった。IPS は対象データ項目が明確になっており、またデータ交換における必要度区分がかなり固まっているので、PPI の標準化の核となるユースケースとして IPS をベースにした患者情報共有のための交換モデルを策定することが考えられる。
- ② 本研究会では、これまで一般の臨床医を対象とした PPI に対する意識調査を実施していなかった。今回、リサーチサービス会社を介して調査を行い、約 300 名の回答が得られた。詳しい分析は遂行中であるが、PPI のデータ項目として装備すべきデータ項目に対する意見は多様であり、医療機関の病院情報システムにおける PPI の暫定標準データ項目の整備状況と類似していることがわかった。この調査からも、万人が等しく必要と認める PPI の標準データ項目を設定することは困難であることが再認識された。

活動成果の発表：

[雑誌論文] 計 2 件

- ① 栗原幸男：地域医療での precision medicine 実施のための医療情報基盤整備の必要性, Precision Medicine, 2(8);76-79, 2019.
- ② 栗原幸男, 石田 博, 木村映善, 中山雅晴, 渡邊 直, 木村雅彦：患者プロフィール情報 (PPI) の標準化戦略を考える－PPI を EHR、PHR 整備のコアと位置づけて－, 医療情報学, 39 (Supplement);123-125, 2019.

[学会発表] 計2件

- ①栗原幸男：患者プロフィール情報の標準化戦略を考える，第45回日本診療情報管理学会学術大会，大阪，2019
- ②木村映善：FHIR 標準化プロセスにみる標準化プロセスのベストプラクティスの模索，第39回医療情報学連合大会，千葉，2019.

[その他] 計1件

- ①佐野博之，武田理宏，上田郁奈代，栗原幸男，中熊英貴，渡邊 直：患者情報標準化に向けた診療情報管理士の役割，診療情報管理，31(3);33-51，2020.